

骨粗しょう症は、こんな病気です。

骨粗しょう症は、加齢や閉経、その他のさまざまな原因が組み合わさって骨が弱くなる病気です。骨の量は、およそ20歳でピークを迎え、その後、徐々に減少していきます。また、閉経後は女性ホルモンが減少し、骨の量を急激に減少させるため、骨粗しょう症は女性に多く発症します。

骨粗しょう症になると、骨がもろくなって、背骨が徐々につぶれることにより背中が丸くなったり腰の痛みが引き起こされたりします。さらに進行するとあしのつけ根の骨折を起こし、寝たきりになることもあります。

(背骨)

ようつい
腰椎

健康な人の腰椎のイメージ図

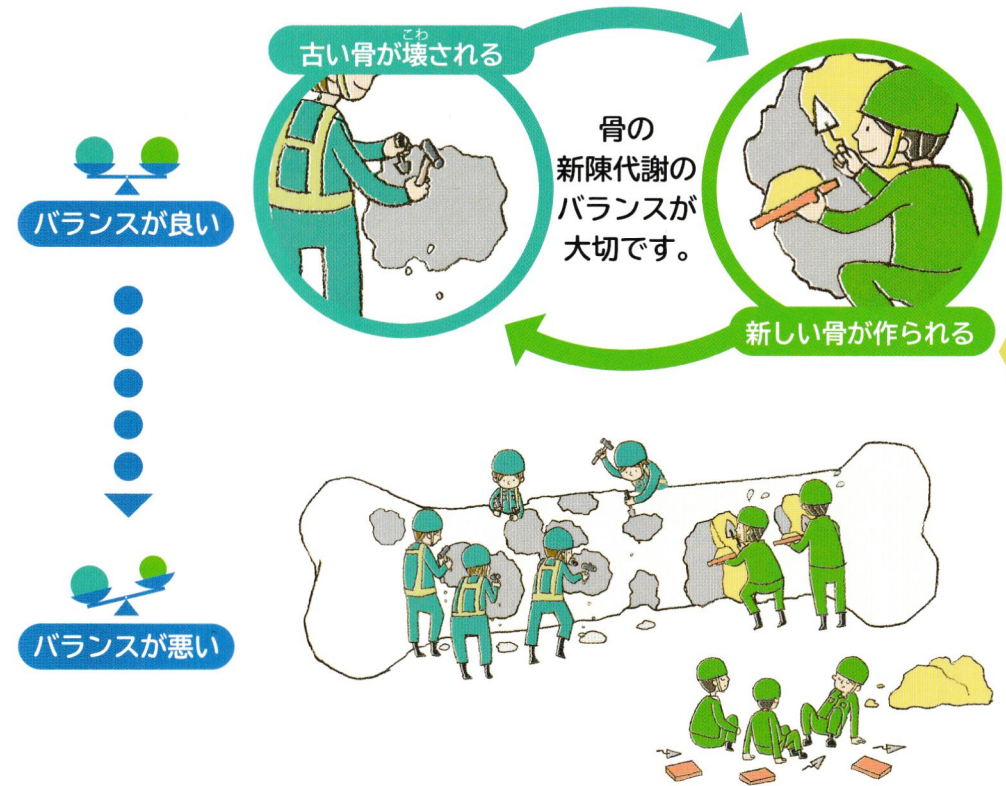


骨粗しょう症の人の腰椎のイメージ図



骨粗しょう症は、骨の新陳代謝のバランスが崩れることによって引き起こされます。

骨は、常に古い骨が壊されて、新しい骨が作られ、少しずつ置きかわっているという新陳代謝しんちんたいしゃを続けています。



骨粗しょう症の患者さんでは、古い骨が壊される量が増えて、新しい骨を作る作用が追い付かなくなってしまうのです。そのため、骨の量が減少していきます。